

夜回り

山田先生

西陵商ラグビー部元監督



▶17◀

選手の友達が応援に向かう途中事故死



▼山田耕二(やまだこうじ) 名古屋市中区生まれの73歳。元ラグビー日本代表。西陵商(現西陵)監督として1997年、全国高校大会で愛知県勢初優勝に導く。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

私なりにチームの強化に取り組む、結果に結びつきそう

な年を迎えた。1996年度

の全国大会「花園」。全国では「軽量商」と冷やかされる小柄なチームながら、例年に比べると体が大きかったり、素質のある選手が多かった。普段はやんちゃで個性的な生

徒が多かったが、試合になる

と目の色を変え、力を発揮していた。前年度は準々決勝で山梨県の日川高に1点差で敗れた。

その悔しさも忘れていなかった。初戦から順調に勝ち進み、迎えた準々決勝。「東の横綱」と呼ばれる優勝候補、東京が、交通事故で亡くなったそ

の国学院久我山を16-8で破

り、初の4強入りを果たした。「このチームなら、もしか

したらやってくれるんじゃないか」。そう思っていた準備電話に電話が入った。「ラグビー部の生徒の友達

うだぞ、けさ、そっちに応援に向かう途中で…」

頭の中が真っ白になってしまった。事故はその日の早朝

だった。私たちを応援するた

め、名古屋から車で大阪に向かっていた少年たちが事故に遭い、1人が亡くなった。亡くなった少年と中学時代に同

級生だったメンバーが5人

いた。特にスタンドオフの東谷

拡史と仲が良かった。生徒たちには黙っておこう

「花園」快進撃中に届けられた悲報

か…。一瞬迷ったが、テレビなどの報道で知るのほもつと辛いだろうと思った。試合後、快勝に沸く彼らをロッカールームに集め、伝えた。話し始めると、満面笑みだった彼らの表情が、みるみるこわばっていく。普段は元気で明るい悪ガキ三昧な生徒たちが、壁に額をこすりつけた

り、床に伏したりして泣きじやくった。辛い時間だった。